Fire Emblem: Three Houses

VERY ADULT ONLY

Byleth

×

Edelgard

♂×♀

adult only

Hentai

R18

Adult only

ZERO DOLLARS JUNK2021　KazuyoshiMasaki

Kazuyoshi Mizuki Zero Dollars Jyunkoyori

BY LETH

EDELGARD

R-18

Black Berry and Red Raspberry

contents

一幕 5
二幕 85

奥付 162
あとがき 163

outro 164

「邪魔をされた」

最初の印象は、ただ、それだけ。

「ここで殺す」はずだった　というのに

私は、

ここに

友人を

作りに
来たわけでは

——ない。

邪魔をした。

……

――で、
殺し損ねた、
ようですね
――そうね。そうなるわね
盗賊(あいつら)をけしかけて襲わせて
貴方たちと分断
我々級長だけになった所までは予定通りだったけれど
助けを求めて入った家の者が
まさか……ね

トン
トン
トン
トン
トン

そうでしたか
そうそう、調べたのですが
壊刃のジェラルト

彼が
セイロス騎士団に
戻るのは
些か予定が
狂いますな

ええ
あの
パラディンね

そうね。
彼は
どうなり
ますかね
セイロス騎士団に
所属するとなると
「敵」がまた一人
増えることに
なりますな

そうね、
それは、
困るわね

…エーデルガルト様
実はですね

ん？

士官学校の教師に――？

まぁ確かに盗賊に襲われた生徒たちをおいて逃げるような者は論外だけれど……

傭兵をしていた男に……教師をいきなりさせるとは

大司教殿は何を考えているのやらですな

傭兵ならば帝国で雇えると思っていたのに……そう……教師……

今は――

各学級の話を級長に聞いてまわっているとか

そのうちエーデルガルト様の元へも来るでしょう

私の、

私の学級の師になる。
（せんせい）

だが、彼は、

アレ は、

私　の、　帝国の、

では改めて
名乗らせて
もらおうかしら

私は
エーデルガルト＝
フォン＝フレスベルグ

アドラステア帝国の
皇女であり

第一位の
皇位継承者よ

黒鷲の学級　の　教師　に、　なる。

貴方が私たちの学級を受け持つ、なんてこともあるのかしら

アレ、は。

この男（ヒト）は、

私の、モノだ

楽しそうじゃな
おぬし

……。

そうなのか？

楽しい？

たのしい……

先生！

ベレト先生

先生
おはようございます

たのしい……、
のかも、——しれない。

師

おはようございます

おはようエーデルガルト

……

ヒューベルト
おはよう

おはよう
ございます

なぜ「隠す」のかのぅ……

ふたりとも。

…みなが
ぶじから
いいしゃないか

ガ

ガリ

ぽん

ぽん

あ
師……ごめんなさい
いや、いいよ
もう少し上手くやったらどうだ

ヒューベルト。
君が俺を
不信がってて

なにか彼女に
良くない事をしないか
見張るのは
わかるのだけれど

もう少し
上手に
殺意は隠せ。

自分のことは
いいけど

この前のは
よくなかったよ
君の殺気で
逃げた猫たちを

自分が
扱うのが
下手だった
からではないかと
悲しそう
だった

君の判断が
間違うことは
ないと
思うけれど

ええ
私は常に
我主
エーデルガルト様の
益になる
考えてまして
ますので

そう

その後
エサと
魚を釣りに二人
仲睦まじく
していたでは
ないですか
それはそれで
我主は
楽しそうに
していましたな

…本当によく
見ているな。

彼女の
エーデルガルトにとって
俺が邪魔だとキミが判断したのなら
殺せばいいと思う。
コラ!!
かってにコロサレるなわしまでシンだらどうするんじゃ
あー
納得いかない場合は殺されないから
大丈夫。

どうにか片づいたか…

あいつらのせいでミール村の連中は……

ここにいたか、

ベレト。

特に
天帝の剣を持つ
貴様の力があれば、
ソロンなど
敵ではない……。

放っておけば
彼奴らはまた凶行を
繰り返す。
それを
止めたくはないのか？

炎帝 に会って——

——そんなことを？

それで、
師は

手を組む気は
あるの？

エーデルさん！
ちょっと聞きたいことあるの。
ぐっ
あ、ごめんね。
邪魔しちゃった？
いえ、気にしないでいいわ。
師 それじゃ、また授業で。
……
……。
…足音

はは…
なんじゃ炎帝とやらの厨いの手紙か？
この字は……
ちょっと出てくる
ガチャ
エーデルガルト
エーデルガルト？
「来い」って手紙にあったから
今から部屋に行こうかと……思ったんだけど……

手紙を見てくれて
部屋を出てくれたら

扉が開いたら
入るつもりだった

来ようとして
くれた。
それだけで

うれしいの
師。

師、

ん

ちゃ

女の子なのだから、

そういうことは

大事な人としなさい。

自分を、

カァ

自分を
安売りするのは

駄目だよ。

「よう我慢した」

といえば
いいのか？

正直、

好きおうて
ようにしか
おぬしらが
抱きおうたら

見えぬ

「まぁ
そういう
もんじゃ
くらいじゃが
な」

身体　が　あ つ い。

師が、
ふれた
一番

剣を振るい続けた
指はとても
皮がかたくて
男の人だった

男の人にしたら
細い方だと
思っていたけれど

師に
触れられたら
もっと
触れられたら

私は
どうなって
しまうのだろう

ただ、指が
唇に
触れただけで

こんなに心臓が
張り裂けそうなのに

あんなにも近くで見たのは、はじめてだった

「自分を
安く売るのは
ダメだよ」

安く……なんて
売ってないわ

私は…師がほしかったのに……

私はマヌエラ殿やドロテアみたく
扇情的な身体ではないけれど

「女の子」

女性としては見てくれているってことよね？

…でも「女の子」か……

「子」……か…

師は確か、二十歳と少しくらいだって話よね
そ、そんなに年の差があるわけではないわ
私だってそこまで子供みたいな身体ってわけでもないはずだし

まさか
そもそも私に
イチ生徒ということ以上には
興味がない!?

師は皆にやさしく接するものね……

私以外ともお茶会しているし

他学級とさえ誕生日と知るとお茶会しているものね

…でもそれは師がこの士官学校で「教師」を実直にしようとしているからで

それとも

師は――

炎帝が「私」と気づいている？

……が、我と貴様らとで手を組むというのであれば

師、

どうかこの手を受けよう。

師、

とうて。

手を組もうと誘われた？

そんなことを？

……それで、

師は手を組む気はあるの？

「ある。」

師はたしかにそう言っていたけれど。

……そうだ。　私には

成さねばならない事が ある。

せんせい

せんせい

師、

師

ス

ス

ス

せんせい……

ベレト、
覚ましたか？
ここが、聖墓です。
……師。
私の前に
立ちはだかるのは、
やはり
貴方なのね。
……ベレト。
エーデルガルトを
斬りなさい。
今、すぐに。
この者は
フォドラの災厄。
主は、この叛徒が
生き続けることを
決して
許しはしません。
師……
師……
ここまでのようね……。
私の……
私の手を
どうか
どうか…

そう、ですか。

あなたも……
「失敗」だったのですね。

こ、
ええ……
貴殿の選択に、
言葉を絶するほどの感謝を。
聖墓を穢し、我らが同胞を辱しめた者に、あなたは力を貸すと……。
そのような者に、
い行女
女神ソティスの力を行使させるわけにはいきません。
せめて私の手で、あなたを裁きましょう。

その胸を裂き、

心の臓を取り出して……！

あれが……
白きもの
ですか

レアが、
その首魁なのよ。

そう
……フォドラを
長きにわたって
支配してきた
人ならざるもの。

陛下、先生、
脱出を。

ふう……

追っ手は、
まいたようね。

でも……
これから
私は
皇帝として
セイロス教会と
戦う……

大丈夫、と言われた気がした。

師が一人こちらに
ついたからといって
戦力が大きく差がつくわけでは
ないけれど

いや、
師を
あの大司教レアが
手放したくないと
そばに置いて何かしたかった
先ほどの「失敗作」という言葉から
分かる
それだけ必要としていた師が
こちらについたのは……

師の手のひらから
伝わる熱は
確かな物だ。

私は、
信じる。

貴方が
信じてくれるなら
この道を

この足が
踏みしめる
地が

たとえ

カツ

血に
濡れて
ようと

私は、

私が信じて
選んだ
道を
行く。

皆が
ついてきてくれた
私は
この道を
進むんだ。
師が、
こついてきてくれた
の道を。

その手で
背中を
押してくれる

後ろを
振り向かない
ように
してくれる

倒れないように
支えてくれる

師……

本当に
ついてきて
くれて

ありがとう。

今、気づいた。

私は選べなかった事を
恨んだ
でもそれを打破しようと
戦うことを選んだ

でも、怖かった。

選んだ道が、本当にこれで
良かったのか。

その道は酷く血なまぐさいものではないのかと
そこまでしないといけないことなのかと

その道を
「それでいいよ。」と
言ってほしかった……

誰かに。

それが 師で、
本当に良かった

やはり情報が
少ない……

ガルグ＝マクに
入り込んで探りはしたけど
それでもこの情報量

そもそも
土地が
攻め入りづらい
分かっていたことだけれど……

エーデルガルトは？

天幕にいらっしゃいますよ

ぴた、

……？

先生？

殺すのなら
今だと思うよ

くくく

師……その

改めて、私、いえ
帝国についてくれて
有難う

炎帝として
動いていたこと
ちゃんと説明して
いなかったのに

そんなこと言いたいわけではない。

いいえ、大事だけれど

私は、皇帝なのだから。

師？
地図広げてこんな夜更けまで戦略を？
そ…
そうだわ……師の考えも聞かせてくれないかしら
どこ？
!!
天幕には先生がいらっしゃる警備はいいでしょう
あ、はい
ここは先生に任せて休める時に横になってください
はい！

ちゅう、ん
師？なんで
なぁっ
エーデルガルト
は
はい
君についていくと
君の決意を聞いて改めて思った。
今、言うこと?!

そ……

帝国では
臣下の忠義
立てるのに
口づけをするものなのか？
勉強不足だった
すまない

そ……

臣下として
たてまつりたくて
きたの？
皇帝の
わたしに

そんなわけ
ないでしょう……

もう一回、
勇気をふりしぼれと？
貴方は言うの？
私に……

ごめん、
ごめんって。

泣かしたいわけじゃあなかったのにな
んっ
ひ…ひ…
いやなら涙拭いてから帰るよ
ちゅう
ひっ…せ
師は……
ん？
ど…どうしたいんですっ、
ん
そうだな
……うん……
？

エーデルガルト

ちゃんと
キミの目を見て
自分の言葉と声で

君を

好きだと
言いたかった

あの闇の中で
強く願った

そうだ
俺は……

彼女のそばに

居たい。

いってこい！

なあ
レト。

うむ！

それでこそ
わしの半身じゃ！

わしは
消えんさ

とにかく
キミに
好きだと
言いたかった。

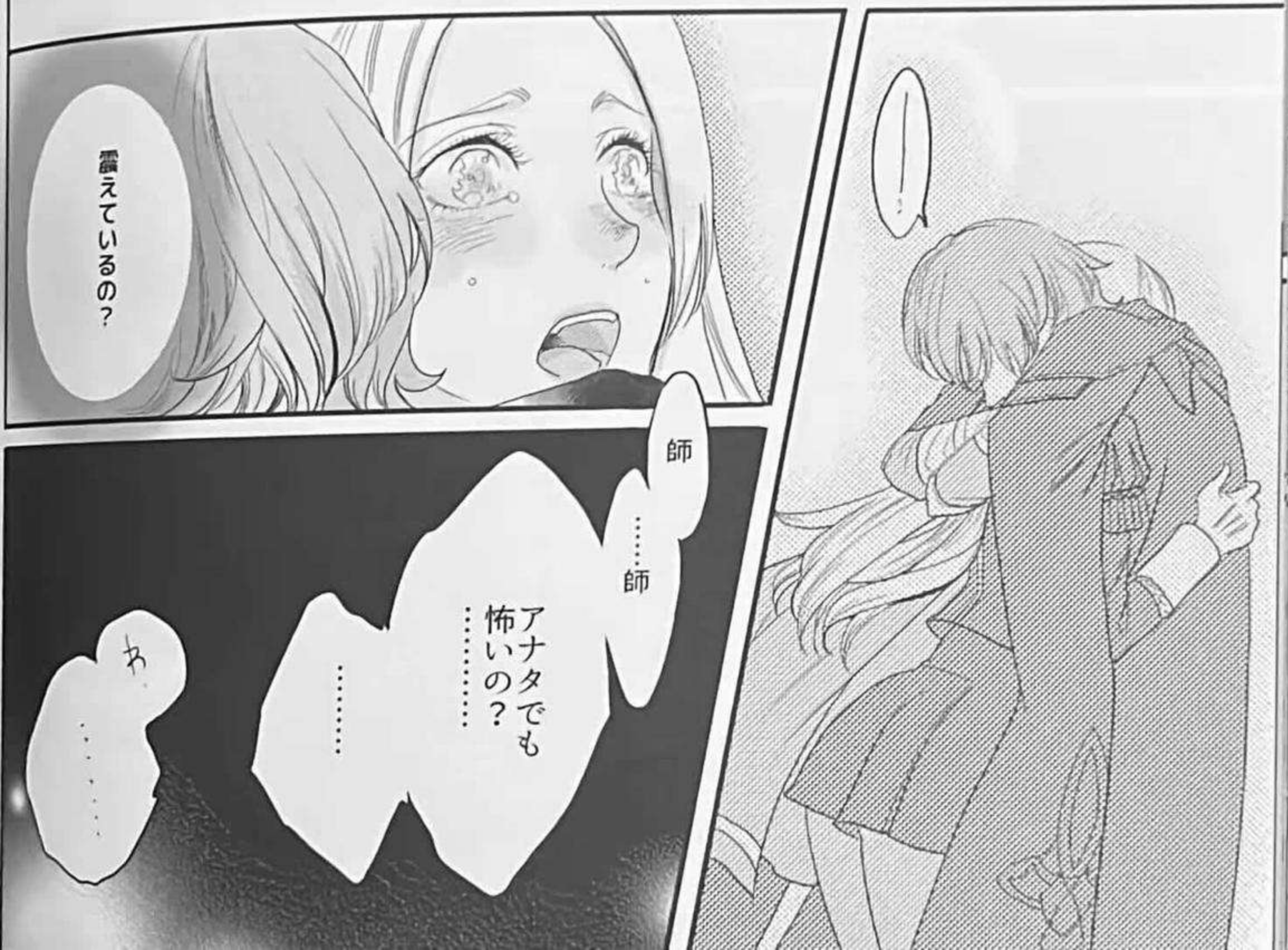
キミがなにを
背負い、
どうして炎帝と
名乗っていたのかとか、
まだ分からないけれど。

そこに当たり前にあると思っていた

強い者が突然いなくなった

その強い者が　かつて　信じて　付き従った、存在と

袂を分かつことになった



師……私も
私も怖いわ

皇帝になること、
民を、背負うこと
当たり前にそこにあるものを
壊すこと。
動けなくなっていった兄弟たちの
無念を晴らすこと
これ以上
辛いことが
皆に
降り注がないようにすること

ずっと
独りでは
背負いきれない。

わ…

こどもみたいに泣くなんて
とうに忘れたわ

こどもみたく泣くということさえ
知らなかった――

ん…

ん…

これが
お互い
「恐怖」から
逃げた行為なのか
本当に
愛というもの
だったのかは
分からなかった

身体を
重ねずには
いられなかった

ん…

ん…

師……！

スキよ

あぁ……

俺もだ

ん
ふ
ん
くじ
せっ
そういうのが好きとかではないのでしたら
せんせい……
ん？

ん

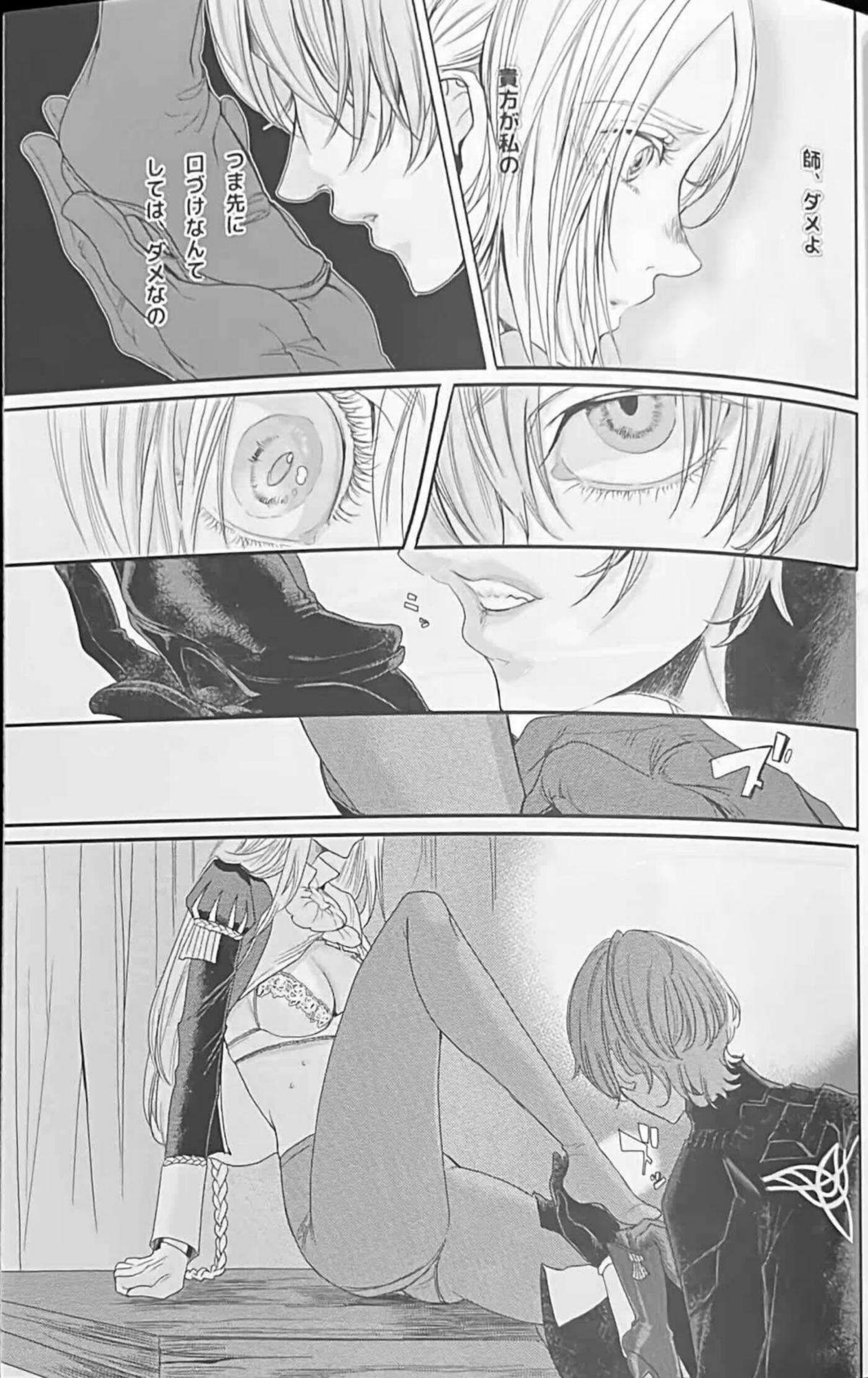
じゃあ

全部見せて。

せ、師

この状態は……

はずかしいです


師、ダメよ
貴方が私の
つま先に
口づけなんて
しては、ダメなの

ドキ
ドキ
つっ
ん
きゅ
んっ

どき
どき
何で隠すの
こんなに綺麗なのに
あッ
ズリ
ズリ
やっ
ちゅぷ
ちゅ
ちゅ
やっ
やぁぁ
「や、」ならやめるけど
あ

エーデルガルト？
男ってこうなるんだよ

これが、

思ったより大…きい

ここに入るんだよ？大丈夫？

あ…

そのくらいわかってます

そう？…入れるだけじゃなくて

いっぱい動いて

お互いのイイ所見つけてこすりつけて

気持ちよくならないといけないんだよ？

わっ、わかってます！

じゃあ

そう……

ゴク

ん
ぴくん
くぷ
柔らかくて温かいねエーデルガルトの中
やっ
や？
イヤならやめるよ？
ちがうの……
あっあ
ん
ぎゅ
あ
ちゃんと言わないと痛くしちゃうよ？
嫌なんだ君に苦痛を感じてほしくない
ん
ん
はい
くちゅ
くちゅ
ん
ん
わっ
わからないわ
でも………
あっついの…
きゅん
あっっ❤❤
ちゅぷ
くちゅ

ぐっ
ぷぁ
んん
ああ
んっ
んん…
ふ
くちゅ
ぐちゅ
ん…
はっ
あっあ
んあ
はー
っっ…
ぐぷ
ぐぷ
んーんんー…

あ
んっ
あ
あ
ぴゅル
ぴく〜
は
あ
！
師…？
うそ
やめて
きたない
ちゅう…
コポ
コポ

あ、
あ♥
ちゅぢゅ
ちゅ
ちゅぷ
チュ
チュ
チュプ
ヌッ
ちゅッ
ちゅる
や
ん♥
師♥
師♥
んー？

ちゅう…
ぺろ
ぺろ
は
ぺろ
あ
ぎゅ…ぐ…
ぐしゅ…
あ…ん
んっっ
きゅ…

ずっ
ずっ
ん
ん
ずっちゅ
ぷるぷる
エーデルガルト
はい
?
はっ
はっ
はっ
いやだったら…本当に痛かったら
はっ
はっ
あっ
あっ
あんっ
師…
アリイ♥
あついの……
やぁぁ
ぶぶぶ
ぶぶぶ
おっ
おっ
ぶぷ
ぶぶ
ぷぷ
トロ……
殴ってでも止めて

あ
あ
あ♡
パチュ
パン
どうしよう……
師がきっと優しくて……？それとも
私が痛みに強いからかしら……そこまで痛くはない……
むしろ……もっと
エーデルガルト
ん
はっ はっ
もっと動いていい？
……ゆ、ゆっくりなら……
ん…ありがと……
私で……興奮している？

み
んっ
あ、は、
ズ…
ズ…
ズプ
ずぷ

ヤダ

ヤダ

無理は……

してません。

うん

ゆっくり休むんだよ？

はい

ゴッ

もっと一緒にいたい。……周りを…気にせず

ふたりで朝までいたい

――――――――でも、それはだめだ。

物資が届き次第隊の編成を決めて

どこを攻めるかの担当を割り振りたい

我々はあくまで遊撃隊だから

大きい編隊は組めないが機動力を重視で連携をちゃんととりたいな

飛行部隊に連絡をさせる？——それは目立ってしまうか騎馬にさせたほうがいいかしら

飛行部隊が連携とっていると思わせてさせるか

それは危険ではないかしら

物では本国から物資が届くころには

また状況が変わるだろうから

わかった決めすぎても良くないか物資がちゃんと届いてから考えようか

ねえ

ヒューくん

なんです

……

何でもない

そうですか

分かってて見逃している？

ヒューくんが？

あれを……？

師……

エーデルガルト

身体に異常はない？

ないです。

ダメだな

え？

止めないと
いけないのにね
でも
もう
ダメだな
って。
……ガクガク
あぁ、
うっ
ちゅぷ
ちゅぷ
あんあっ
ちゅく
あっ
ズッ
んあ、
んっ
ズッ
ズッ

ふっ…
ズブッ
あっ…
ずっ
ずっ
ず
あ
ん
あ
ずっちゅ
は
あ
ズプッ
ズッ
んっ
ズチュ
んん♥♥
ズッ

ぱぁ
ぱぁ
ぱぁ
ぱんっ
せ、せんせい♥
はぜしい……っっ♥
あんん♥
ん――？
ゆっくりの方がいい？
ん…♥ちがうの
ん
でもでも
ん
くりくり
きゅ、
きゅ、
ゆって。エーデルガルト
へんな声でちゃうから……
んんっ
いやらしい水音も
ぱん
じぶんから出てて……
はしたない……のに……
ぱん
ぱん
なのに？

きもち……よくって……
ふーん
きゅっ
あん
あ
あん
ぐぷ
うん
あん
あっやだあぁぁ
ガク
ガク
キちゅうっ
ぱんぱん
ぱんぱん
ぱん
はっ
はっ
やあぁっああぁ
かわいいよ
すごく
エーデルガルト
可愛い。
ぱん
やあ
ひっ
ぱん
ぱん
あっ
あ
あ
あやぁ
あ
ズン
ズン
ズン
あん
ズチュ

あ、
ん
やっ
せ
せんせ♡
ん・
エーデルガルト・

私達は
そのことを考えないように
していたのだと思う

ガルグ＝マクを
攻めることで

何も失うことは
ないなどと
いうことは
きっと、ないだろうと
いうことを

だから
戦の準備をしている
一節の間

刻み込むように

求めあっていた

まさか、師を
失うとは
思ってもいなかった

あんな形で……

せんせぃ

一幕

劫火の中の恋情

終

二幕

淚雨

馬鹿者が　無茶をしおって。

すこし、眠るのじゃ。今は、ゆっくり休め

いってこい！
「5年」
……なあ、あんた大丈夫か？
頭でも打ったんじゃねえだろうな。
今は1185年の、
星辰の節。
大修道院が
陥落してから、
もう5年近くになる。
本当なら明日は千年祭の日だったが、
それどころじゃねえからなあ。
って、
お、おい！
あんた、どこに行く気だ！

ガルグマク大修道院よ

もうすぐ嫌でも目に入るわ

あれが

誰……！

コツ

せ

せんせい？

おだんごもかわいいな

角、生えたのかと思った……

かわいいな

5年、彼女は
戦ってきた
俺は、いったい……
せ、せんせい
う、うれしいけれど
その、
ぐぎゅうぅぅぅ
くるしいです
わるいっっ

その……

……

エーデルガルトがいとおしくて

つい……

？

あ、

いえ

熱でもあるのかと……

ひたひた

本当に…5年ぶりですね？！

そんなことをいいましたっけ？寝ぼけてます？

そ、そ

俺のことを何だと思って……？？？

……

何を考えているか少々分からないところもある――

とても頼れる

私の師よ。

くぅ

?

師？大丈夫？まだ寝ぼけているの？

…いや ちがうが

大丈夫そうなら「今」を説明したいのだけれど いいかしら

ああ 頼む。…あと他の子たちはどうしている？

皆息災よ 共に5年戦ってくれたわ

遊撃軍として師がどこかで生きていると信じて

歩きながら聞くよ
早く皆の顔が見たい
分かったわ
これは懐かしい顔ですな。
先生ではありませんか。ご無事で何より。
まわ
ぐ
センセイ
夢か?!
おかえり
なさいませ

貴方のいない遊撃軍はどうにもぱっとしない気がしてね……
嬉しいよ。
5年ぶりね。貴方にまた会えて
生きる希望が湧いてきたわ……
やった——
ラクをできる…
何だよエーデルガルトお前が一番ウレしいんだろ？
先生の行方わからなくなってめちゃくちゃ荒れてたもん
……貴殿が姿を消して5年。
誰一人

欠けること
が
ありません
でしたな

なんです
笑うところでは
ないかと？

いや
君は君自身を
それの数に入れてないだろう？
それが少し
面白くって。

ええ

ヒューベルト、
君が彼女をおいて、
ひとり　死ぬことを
想定していないし
しないと誓って
いるだろうし

当たり前です。
そんなこと

…すまない

この5年の
不在

いえ

これから
取り戻してください
先生。
我、主のために

ああ。

ああ

まぁ僕はいるだけで笑顔が増える先生の存在は

ただすごいと思いますけどね

貴方を慕い

貴方の指揮で戦うことを望んだ

仲間よ。

私を含めてね。

シュヴァルツァ アドラーヴェーア
黒鷲遊撃軍の

再始動、といきましょう。

教団に協力する王国は新王ディミトリの下、それなりの結束を見せているし……

同盟はクロードに上手く引っ掻き回されて、内輪揉めを装った中立を保っている。

その状況を打開するため、遊撃軍を修道院に入れて機会を窺っていたのだけれど……

貴方が加わってくれれば、一気に戦局を動かす算段がつく。

敵対する王国軍や同盟諸侯……そしてセイロス教団を打ち破る時が来たのよ。

ぐっ
コ…
コ…
師!!
待って!
エーデルガルト
すまない
少し、考え事を…していた
そう
ですか……
それも……そうですね
色々5年間のことを、これからのこと。いっぺんに聞いたわけですからね
そう…よね
?

コツ

……エーデルガルト……？

分かっているのです

えっと……つまり……

あー……

分かるんです……前、5年前ガルグ＝マクに向かう前のひと月の間……

また、あのような別れが来たら……と思ってしまうのも

ちょっと！待ってくれエーデルガルト

うつつを抜かしている場合ではないと……でもこの5年師のことを考えない日はなかった

諦めてはけっしていなかったですが生きて逢える日が来てうれしくて

ごめんごめんはっきり言わなかった自分が悪い

え

たしかに、再会して嬉しいけど。キミを避けていた。

!!

ああ……！
そんなカオをするようなことではないから
5年、なんだ。
？
5年間そこらへんで寝ていたなんて……
汚いだろう？
だから身綺麗にしてから
ぴくぴゅ
皇帝陛下の寝所に行こうと思っていた
部屋は寮だったところを使っているの？
え、ええ
じゃあ浴室行って着替えてから行くよ
ちょ
それは……その……師……
？
困るから
私の部屋は隣がヒューベルトなのよ？
自分から誘うようなことしたのに……
女の子は繊細だな
……ああ！
そーゆーことか。
声とか音とか……
わっ
私だけがいやらしいコみたいなのやめて

ぽんぽん

うう…

少し時間かかるから先に行って待っている？

はい

あ、でも私も部屋に戻って着替えてきます

え？

そのままじゃないの？

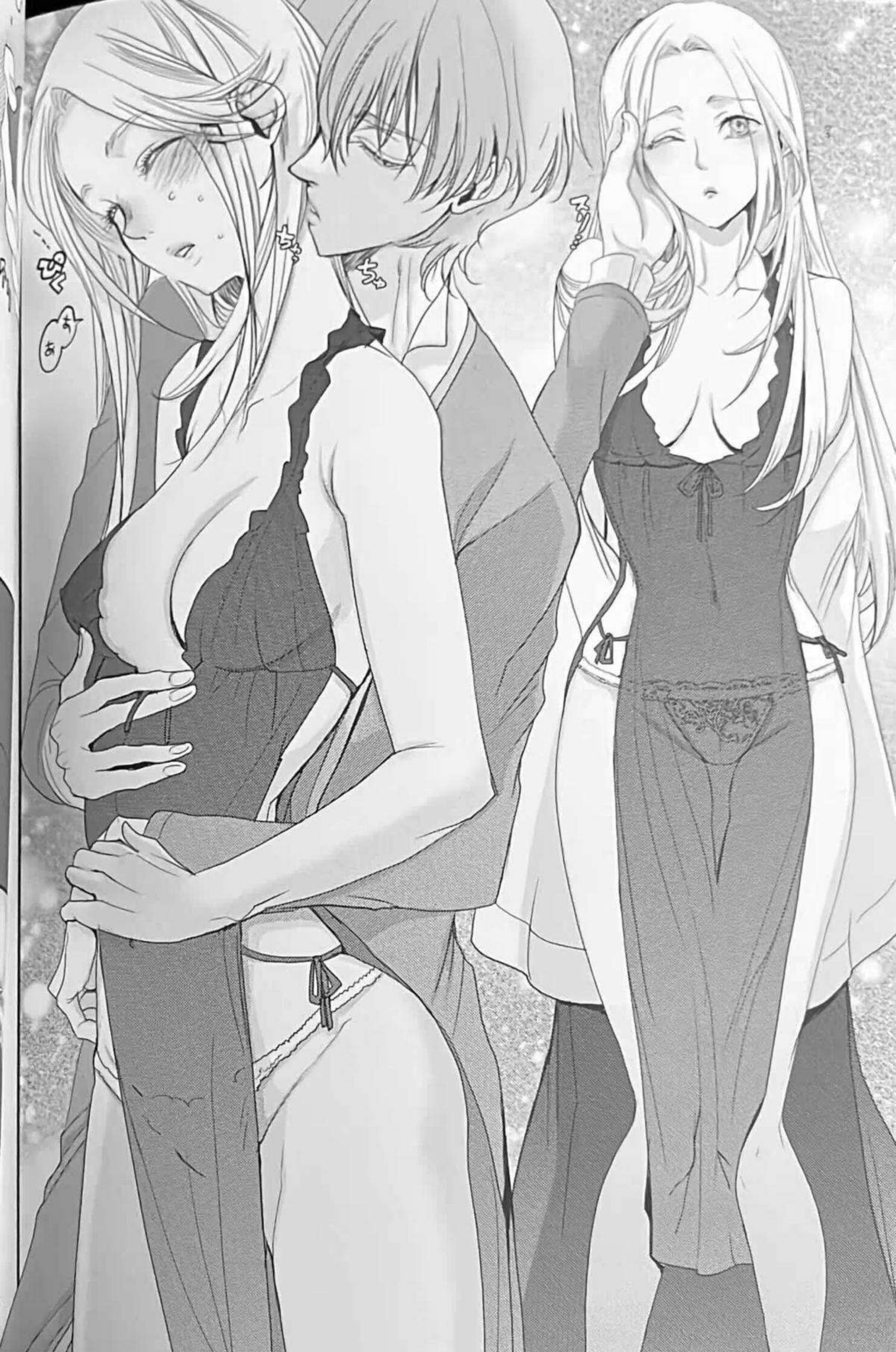
？

つのとおだんごカワイイね

コーティのイヤリングを…ですわ…？

えっと…

んっ
くちあけて.
ん
ん
んっ
く
んっ
ふ んっ
せんせ…い
はぁ はぁ
んっ んんっ
なん


ちゅ
ちゅ

ぐいっ
ぐいっ
ぐっ
ぐっ
あ
ちゅ、ちゅく
あ
あ
ぴく
あ
あ
はっ
ちゅ、ちゅ、
あ、あ、
ちゅ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あっ
あっ
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あん
ズヂュズ‥
ズ‥
ズッ
あ
ふぁ
あ
くる
あ
ふぁ
あ
や
あっ
あっ
ちゅっ
ずぷ
ずっ
ずっ
ずぷ
あっ
やぁぁ
ピュッ
ビュッ
ぷしゅ
ぷしゃん
きゅっ
ん…
ん…
んく
ちゅ
ちゅ

あ…もムリ…
あっ
んっ
はぁ はぁ
あ はぁ
ギシ
じゃあちょっと強く突く。
ギュウゥゥウゥ
ギシ
ギ…
ギ…

ぐぐっ
ぐぐっ
ぐぃ
ぐぃ
ぐぃ
ぐぃ
はい
無理してない？
…そう？

ん

すっ

エーデルガルト？

……

重いだろう？

離しません
…5年前は
一緒に
眠ることも
できなくて

5年も
いなくて……

もう…

無理なんです

ん、

朝まで
居よう。

と言っても
もう夜明けまで
そう時間なさそうだけど

うっかり寝過ごして
ヒューベルトに叱られようかな

…なんで今ヒューベルトの話するんです

…え？
キミのこと人生かけて一番に考えているイイ男だろ、彼は。
スキだよ。だから

そこは……「俺だ」と言ってほしいです

ん――？俺は別枠だから。

ずるい

ん――

ズルい男に捕まったんだよ

かくごしてね。

こう

貴様だけは……
貴様だけは、
ニーナル ガルト……

俺が殺す……！

貴様のために殺された父の無念をッ！
実の娘に殺された継母の無念を知れッ……

貴様が理想のために

あそこまで
逃げれば
流石に
追撃しては
こないわね。

逃騎士団を
追っている。

混乱する
王国軍を
私たちへの
盾にしてくの

……敵ながら
見事な手際ね。

と撤教
の退団
退を始め
のことで
た

ハァハァ

ハァハァ

ああ……
どうしてあなたは
これほどまでに私の邪魔を……

お母様の心臓を奪い、
天帝の剣を振るう……
残虐の王
ネメシスのように……

……この手で、

必ず。
次こそ、
必ず
取り戻してみせますから……。

待っていて

お母様

まだ
痛みますか？

いいや

無茶しすぎですよ
デアドラの時も
ですけど

先生自ら
前線に立ちすぎ
なんです……

……
……

いえ……アドラでは先生が……

前線に出てくれていたからこそ私はこうして命があるので

今日も……

王国軍を退けましたし教会も退いたようですし

ちかッ

参った参った
やられたよ……
ばっ

ええ、
だから諦めなさい？
往生際の悪い男は……
悪くもなるさ。
こっちにも背負ってるもんがあるんだ。聡明な陛下ならわかるはずだ。
俺がパルミラの援軍を呼べた理由が……。どうだ？逃がして恩を売っといたほうが
上手くいきそうじゃないか？
そうかい
……最後の最後まで、
読みを外しちまったな。

我が野望
潰えたり、

だ……

後は
任せたぜ

エーデルガルト

良い世の中に
しろよ……

な

ド

ヒューベルト

はい？

貴方なの？

何でしょうか
エーデルガルさま

師を
嗾けたのは。

デアドラの時も
今日も、そう

師は彼らと
戦うために前に
出たように
見えたわ

先生

なぜ
エーデルガルトを

残念でならない

お前を

殺さねばならないのが

な

ただ力で
弾かれた……！

なあ先生

俺はなぁ
お前の
太刀筋を
知っている
同じく

俺の槍も
知っているだろう

決定的に違うんだよ！天帝の剣を振るうお前を俺は知っているが

俺がこのアラドヴァルを操る姿は知らんだろう

そこをどいてくれないか先生

俺は、彼女の

エーデルガルトの

首を持ち帰らねば
ならないんだ

援護しろ！

皇帝陛下の元に
行かせるな！

……下がるんだ！

命を……無駄に
するんじゃない！

うてぇ!!

打ち続けろ!!

いいぞ！
もっと打て……ッッ

邪魔をするな

皆！
下がって！

皆
下がるんだ

帝国の兵の味方をするんだな
せんせいは、
そうか
あの女の味方を、
するんだ……
な
ぐ
ぴゅ
ピュッ
ブッピュ
――では
殺さなければな

俺が、

止めてみせる。

……私は
別にたきつけて
おりませんが

先生が
そう判断した
ことでしょう

十傑の血を継ぎ
紋章があり
英雄の遺産を振るう
あの男を止めるには

多くの兵の
命を積み重ねば
ならなかった
でしょう

ならば
自分が
止めると……

自ら
前線へ出た
にでは

残念ながら
我らの
「先生」は

そういう
男ですよ

センセ!!

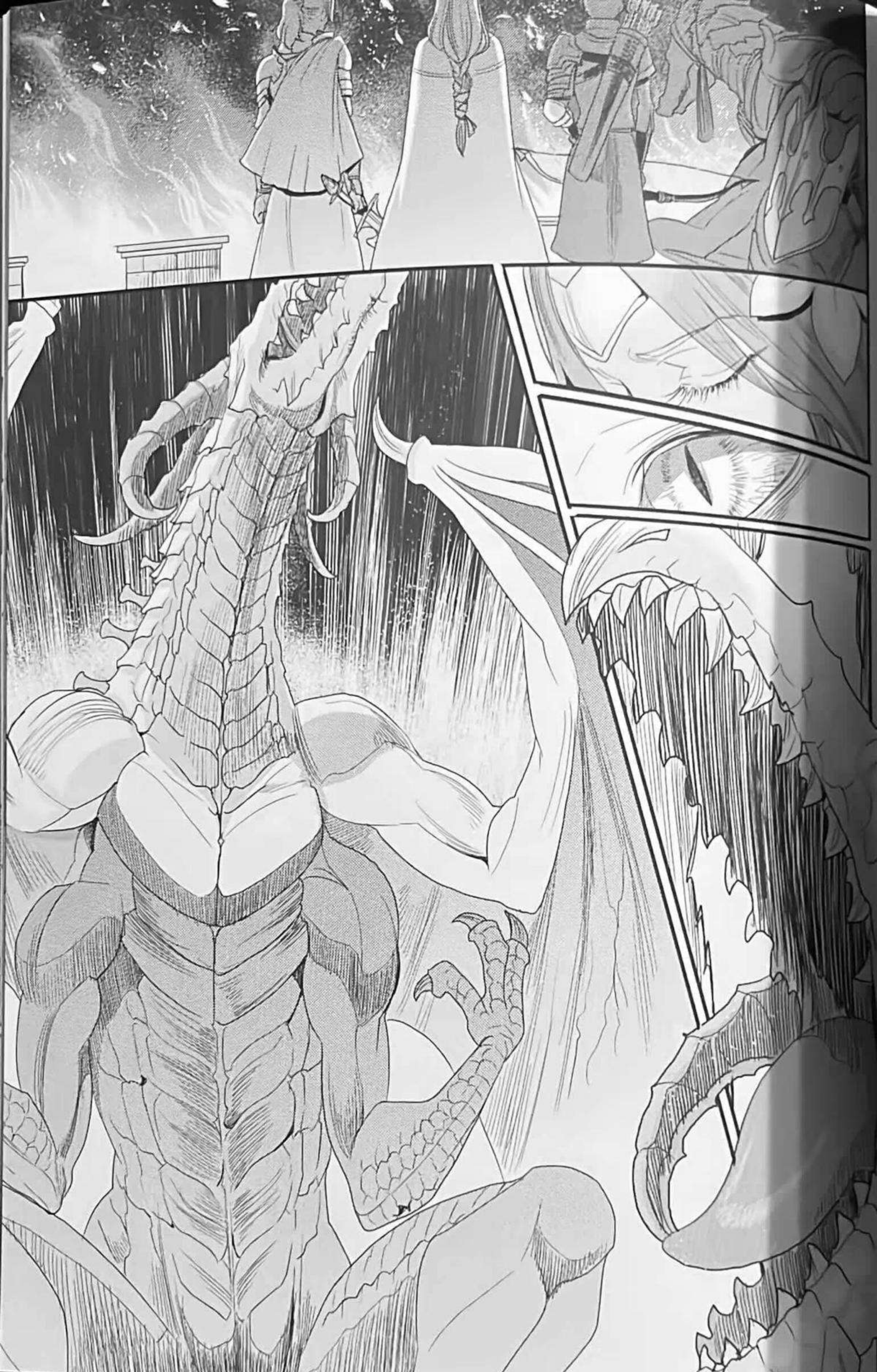
次こそ、決着を。

ええ

私たちの手で必ず決着をつける

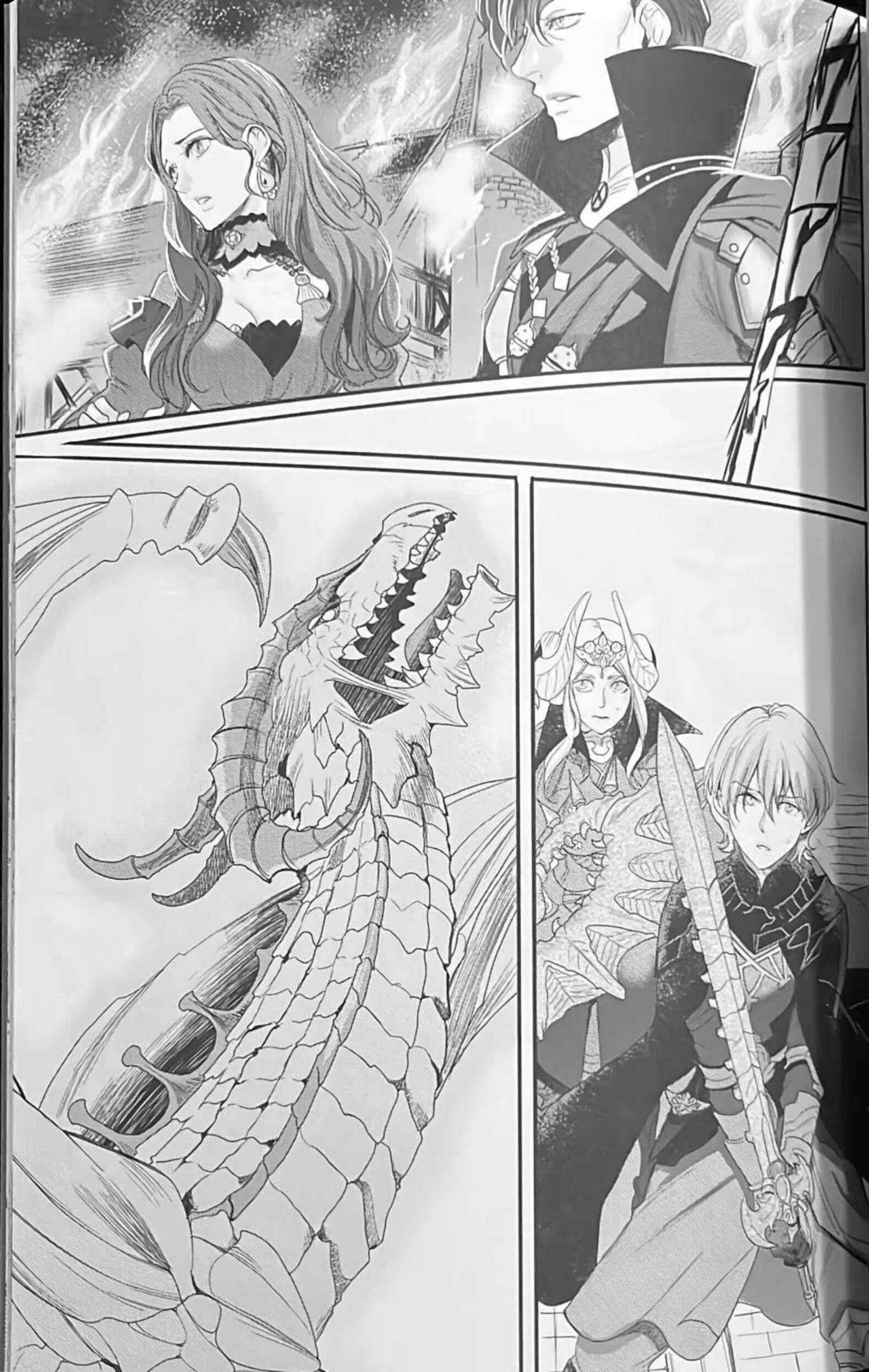
師

――レア王都フェルディアにたち教団はひいたわ



傷つけようとする
……！
何しやがる……！
私とお母様を、
殺わらないで……！
幾多の怪異罰を
経よりうと、
あなたの方の願かさは

お母様を返しなさい



かえして

かえして……

おかあさま……

師?!

師…

せんせい……

皆、帰ったよ

……

そうですか

ドレス

キレイだったよ。

ああいうのは向いてないのよっ

イヤだった？

国政が落ち着いたら二人で式まがいのことはしようと言ってたじゃないか

ふ、二人でなら…と思って同意しましたが

ヒューベルトが皆に声をかけてドロテアがドレスを手配して……あんな、あんなに大ごとにするつもりでは

なかったんです……

皆に祝福されるような人間ではないと

そうよ。

私の足は血に濡れて汚れている

歩いてきた道もそう

あんな白く綺麗なドレスを着ていいような女ではないの

曖かに我々は多くの命を奪い

その上に立っている

突き放すような言葉かもしれないけれど

それは君が望んだことだ。

そして

俺はそれに付き従った。

他人がどう思うかは知らない。

君の願い、成したいこと、

そこへ至るための道、

他人からしたら血濡れただけの道にしか見えなかったかもしれない

でも

自分は
その道を進んで
欲しかった。

それに
奪った命ばかりでは
ないよ。
助かった命、
これから助かる命も
ある

しあわせに
なって下さい

ヒールさん。

とても
とても
キレイです!!

あの……

俺はまた

泣かせるつもりじゃ
ないんだけどなぁ……

うん
わかった

せんせいも
泣いて
いいのだからね

うん
これからきっと
長い人生だ。
色々あるだろうから
泣くこともあるかもね

泣かせて

師の前でくらい

長いって……
師の髪の毛が
それこそ年を重ねて
白髪になるまで……
とか？

そうだね

そうだったら
いいね

ふふ
師の
髪の色……
なんて
たくさん見ることに
なるのかしら

もう2色
見ているわ私

ニノは元々何色なんだっけ

あ、イヤでなければ

私から髪の色の話をしてイヤ、はないですよ

茶…焦色ですかね

……卵は何色でもそうおっしゃったでしょうね

へえ綺麗な色だね

うんヤミの髪なら綺麗な色なんだよ

俺の髪がキミと同じ色になるくらい

長生きしないとな

二幕・涙雨　end.

ファイアーエムブレム風花雪月　ベレト×エーデルガルトR18

Black Berry and Red Raspberry

発行日/2021日1月10日
発行/ゼロダラーズ・ジャンク(将貴和寿)
連絡先/masakazu@gmail.com
twitter/144masaki
pixiv id/240396

印刷/STAR BOOKS様

感想などございましたら
褒めて箱

この本は個人的に作られた非公式ファンブックです。
無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載（SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。
転売は禁止です。
ネットオークション、フリマアプリでの転売はご遠慮ください。
処分する際は同人誌専門の中古書店に売却していただくか、
中身が分からない状態にしていただいた上で可燃ゴミとして廃棄してください。

WARNING:
The producer of this WORK(Book and Do-Jinshi)
has not permitted following,

・Reproduction of this WORK.
・Making of all of means of copies of this WORK.
・Resale of this WORK.
・This WORK is done in the scanning and uproad
to the Wired network (The Wired network includes SNS・P2P and etc.).

The producer of this WORK prohibits sharing
the WORK by the Wired network and the resale.

本書を手に取って頂き
ありがとうございます。

レトエテ本を出したら、描いたら、
爆発すると定期的に言って自制して
描かないようにしていたのですが
無事爆発しました。

結果これです。
P数がおかしくなる自信もあったの
利き手の親指とか手首とか
色々爆発しそうでした。

自分の感情を
表に出さず
キレイに笑えた
エーデルガルトが
いびつに笑い、

感情が表に出ず
他人が求める
笑顔をできなかった
師がキレイな笑みを
浮かべる
そんないびつな
二人だけの「式」を挙げる
姿の漫画の着地点が
最初に浮かびました

あと、泣きすぎて
もう泣けないエーデルガルトと
泣いたことさえない
師が
泣く場面も。

後者は漫画内で描けてよかったです
前者は、ここに描きます。
漫画内に入れない方がいいと思いました

色々勝手に詰め込んで描きました
読んでくださり有難うございました。

将貴

Outro-
同じ髪色になる迄。

皆、

先に
行ってしまった

何もせずに
何も成せずに
ただ踏みにじられたまま
誰よりも早く逝くことは
嫌だったけれど

最後に

残されるのが

ただ
独り
残されるのが

こんなにも

辛いだなんて。

エル

おばあさま！

やっぱりここにいらしたのね

知りたくなかったわ

おじい様のこと
本当に好きなのね

……ええ
私もここに
埋めてほしいわ

縁起でも
ないこと
いわないで！

まだ私と
いっぱいお話して
いっぱいアソんで下さいな!!

では私は貴女に
もう少し慎みを
持ってほしいわね

……

アドラステラ皇帝
としてフォドラを
導いた人に
言われるとは
思わなかったわ

……

ヒューベルトを
教育係にしたのが
間違いだったかしら

あら！

ヒューベルトは
良い教育係でしたよ？

すこーし
厳しかったけれど

私のこと
おばあ様に似て
俊邁だと褒めて
くれたもの

ヒューベルトが
…ねえ……

あと、
おじい様が、
ベレトおじい様が
私を見ると
とても
嬉しそうにして

笑いかけて下さるの。

鳶色の髪
褒めてくださるのよ

キレイだね
って

大好きなあの人の
髪の色だね

見せてくれて
ありがとうって

すごく
嬉しそうに。

でもね
いつも嬉しそうだけど
泣いてしまうの
おじい様は。

おじーさまは
かなしいの？
いつも？
わたしに
おやさしいのに

わたしをみると
ないてしまうの？

違うよ。
哀しくなくても
ひとは泣くんだって

言うのよ。

私
幼すぎて
分からなかった
けれど

今なら少し
分かるわ

おばあ様の
願いどおりにするね
安心して。

おじい様の隣に
私がするから

だから
もうすこし
私達のそばに居てね

やぁよ！
いくら
おじい様のこと
好きだからって

早く
あちらへなんて
行かせない
からね！

あなた

そうなの？
うれしい!!

あの人にも
似ているわ

Thank you for reading.

FIRE EMBLEM:3HOUSES BYLETH EDELGARD

Black Berry
and
Red Raspberry